

2018 冬のボーナス予想調査

## ボーナス支給は前年並みの水準、支出意欲には改善の兆し

### はじめに

当研究所では、第 27 回目となる「今冬のボーナス」についてのアンケート調査を実施した。県内在住者のボーナス支給環境やボーナスの使い道などを明らかにし、今後の熊本県内の消費の見通しなどを探りたい。

### 【調査結果の概要】

- 熊本県内では人手不足の状況が続いているが、今のところ賃金の上昇は限定的であり、今回調査でもボーナスの支給環境はそれほど大きな変化がみられなかった。
- そのような中、ボーナスの使い道では「買い物」という回答が前年比で増加している。比較可能な 2011 年からの推移をみても、2016 年を底として 2 番目に高い水準となっている。
- 買い物への支出総額では、「10 万円超」を予定する人が合計で 20.8%となり、前年比で増加している。2011 年からの推移をみても、2 番目に高い水準で、ボーナスでの支出意欲の改善がうかがえる結果となった。
- ボーナスで買う予定のものでは、「時計・アクセサリー」などで増加しており、高額品の支出意欲にも改善の兆しがうかがえる。
- 「貯蓄・資産運用」の予定総額では、「10 万円超」を支出する回答者が前回調査比で減少している。投資対象の商品としては、「投資信託」を選ぶ人が増加した。

### 【調査概要】

- 1.調査対象：熊本県内在住 20～50 代のボーナスを支給される予定の人（世帯）
- 2.調査期間：2018 年 11 月 1 日～6 日
- 3.調査方法：調査会社登録モニターへのネット調査（調査会社：㈱マクロミル）
- 4.有効回答：406 人
- 5.回答者の属性

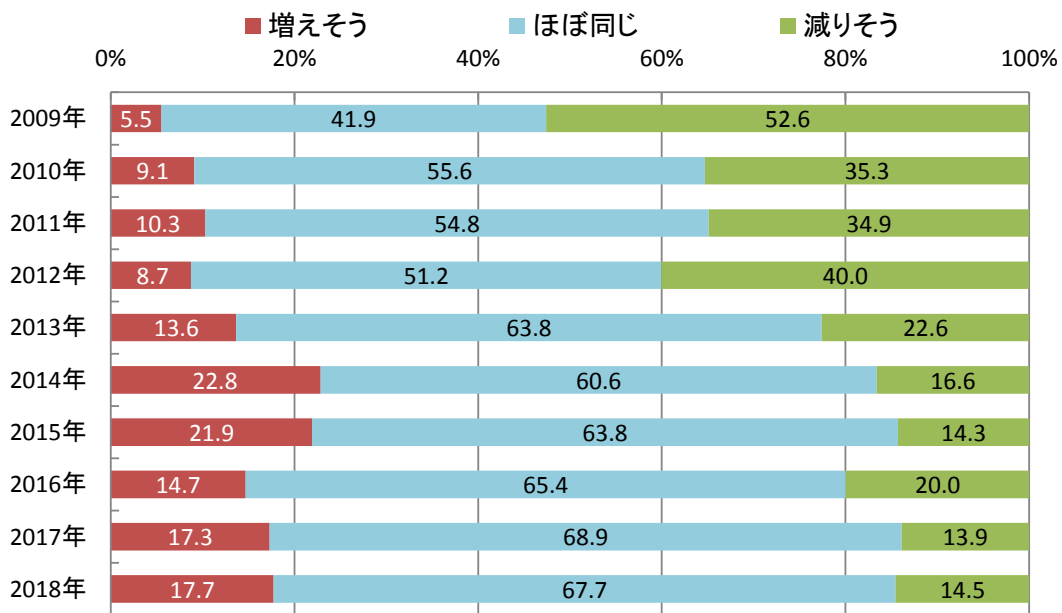
	年代					勤務先*			
	全体	20代	30代	40代	50代	公務員・独立行政法人	民間事業所・団体 (本社熊本県内)	民間事業所・団体 (本社熊本県外)	その他
全体	406 100.0	94 23.2	104 25.6	104 25.6	104 25.6	82 20.2	225 55.4	93 22.9	6 1.5
男性	198 100.0	42 21.2	52 26.3	52 26.3	52 26.3	42 21.2	112 56.6	42 21.2	2 1.0
女性	208 100.0	52 25.0	52 25.0	52 25.0	52 25.0	40 19.2	113 54.3	51 24.5	4 1.9

\*主に家計を担っている人の勤務先

## 1. 今年の冬のボーナス予想

- 今年の冬のボーナスは、「増えそう」という回答が 17.7%、「減りそう」は 14.5%でほぼ前年並みの結果となった。
- 自由記述をみると、ボーナスが増えそうな理由では、「業績改善」や「ベースアップ」など、減りそうな理由としては「業績悪化」や「転職」などをあげる意見がみられた。

図表 1 ボーナスの増減予想推移



### 【参考】今年の冬のボーナスに関する自由記述

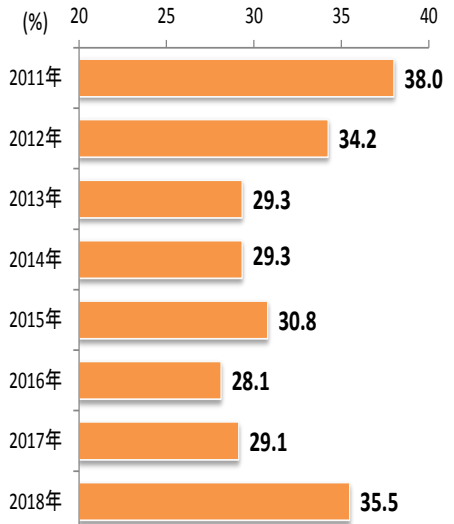
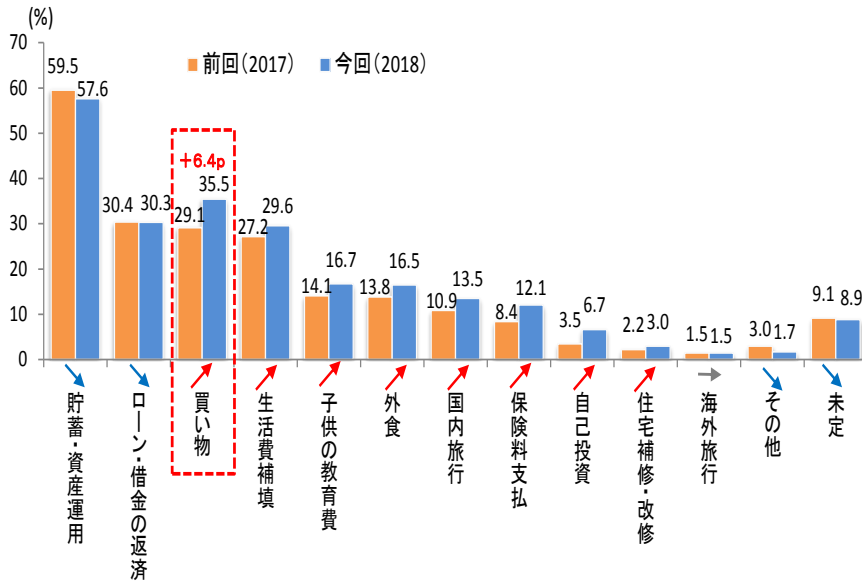
今年の冬のボーナス	性別・年代	理由
増えそう	男性20代	景気回復。
	男性40代	業績がよかったから。
	男性50代	ベースアップ。
ほぼ同じ	男性20代	基本給があまり変わっていないため。
	男性30代	営業利益に変化がないから。
	男性40代	ここ数年同程度の額が続いている。
	男性50代	業績がほぼ横ばい。
	女性20代	昇進もないので。
	女性30代	夏のボーナスは査定や業績次第だが、冬はほぼ固定。
	女性30代	転職して初めてなので分からないが多分同じくらいだと思う。
女性40代	毎年の昇給が微々たるものだから。	
減りそう	女性40代	扶養がいなくなったから手取りが減りそう。
	女性50代	業績が悪いため。
	男性30代	仕事が変わったから。

## 2. ボーナスの使いみち

- ボーナスの使いみちでは、「貯蓄・資産運用」という回答が 57.6% で前回調査に引き続き最も多い。
- 前年比でみると、「買い物」という回答が増加している。比較可能な 2011 年からの推移をみても、2016 年を底として 2 番目に高い水準となった(図表 2)。

図表 2 ボーナスの使い道 (複数回答)

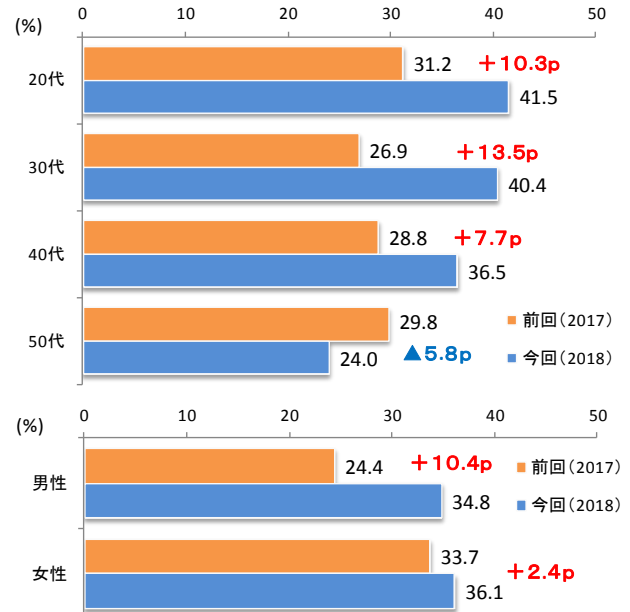
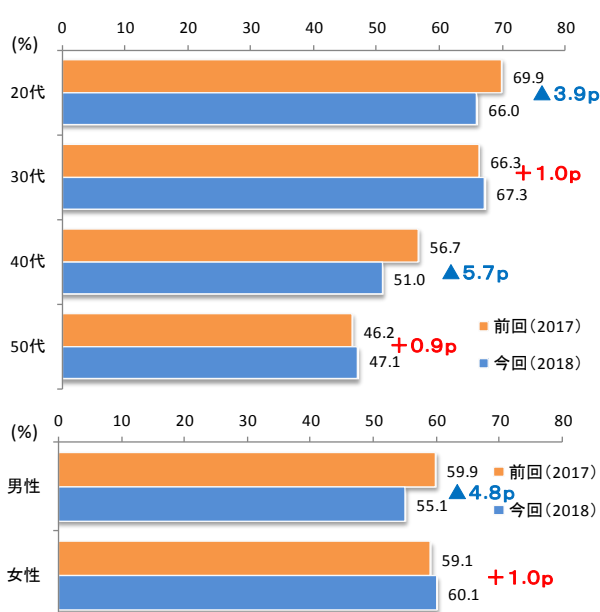
【参考】 ボーナスの使い道で「買い物」の回答の推移



- 「貯蓄・資産運用」の結果を属性別にみると、年代別では「40代」で大きく減少している。自由回答では「住宅ローンや教育費用の負担などが大きく、貯蓄が困難」などの意見がみられた(図表 3)。
- 一方、「買い物」という回答をみると、「30代」や「20代」で大きく増加している(図表 4)。

図表 3 「貯蓄・資産運用」の年代別・男女別結果

図表 4 「買い物」の年代別・男女別結果

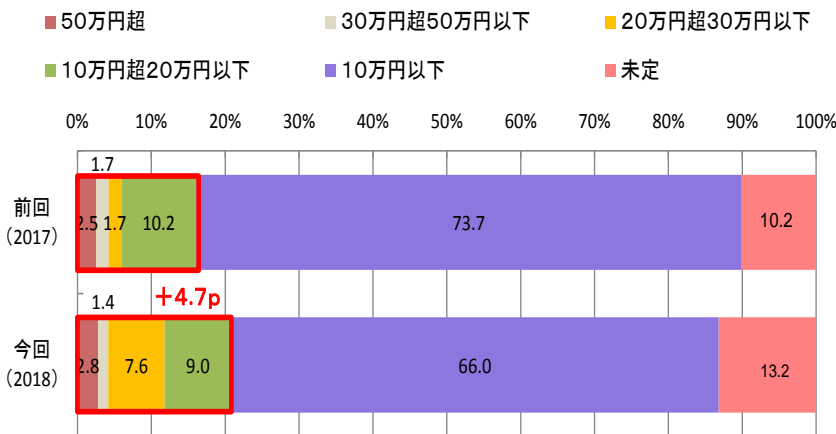


### 3. 「買い物」の予定

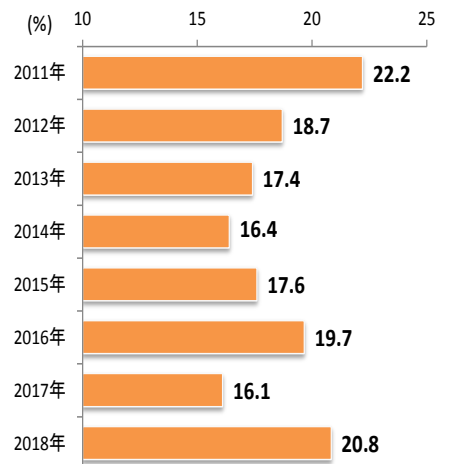
#### (1) 買い物への支出総額

➢ 買い物への支出総額では、「10万円超」が合計で20.8%となり、前年比で増加している。  
 ➢ 比較が可能な2011年からの推移をみても、2番目に高い水準である。ボーナスの使い道の結果(3ページ、図表2)と合わせて、ボーナスでの支出意欲の改善がうかがえる結果となった(図表5)。

図表5 買い物への支出総額



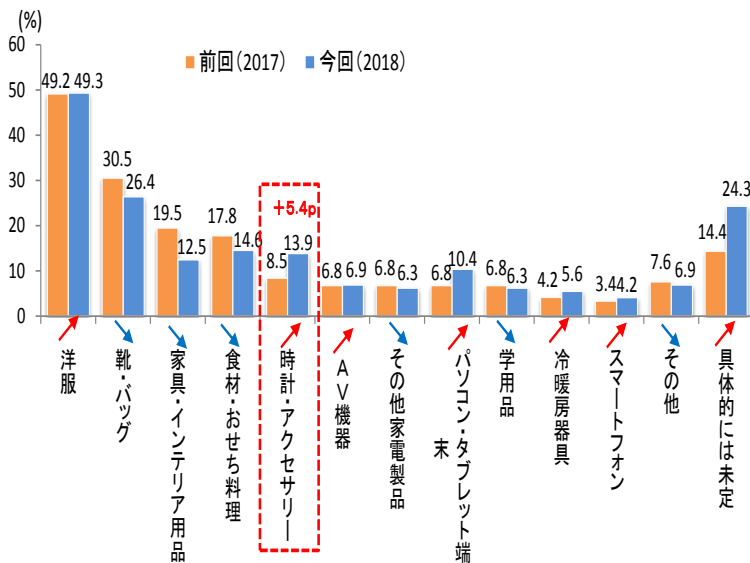
【参考】買い物への支出総額「10万円以上」の回答の推移



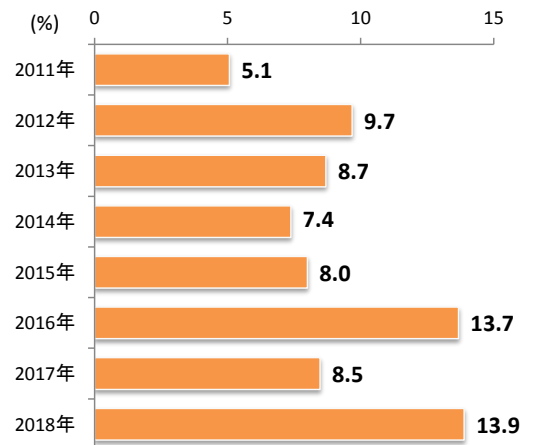
#### (2) 買う予定のもの

➢ ボーナスで買う予定のものでは「洋服」が最も多い。前年比でみると、「時計・アクセサリー」などが増加している(図表6)。  
 ➢ 2011年以降の推移をみると、「時計・アクセサリー」の購入予定者は最も多くなっている。

図表6 買う予定のもの



【参考】買う予定のものでの「時計・アクセサリー」の回答推移



➢最も多かった「洋服」では、「20代」が前回調査比で大きく増えており、購入意欲の高まりがうかがえた。男女別では、「女性」で大きく増加している(図表7)。  
 ➢「時計・アクセサリー」では、全ての年代で前回調査を上回っており、「20代」では最も高い伸びとなった。男女別では、「女性」で大きく増加している(図表8)。

図表7 「洋服」の年代別・男女別結果

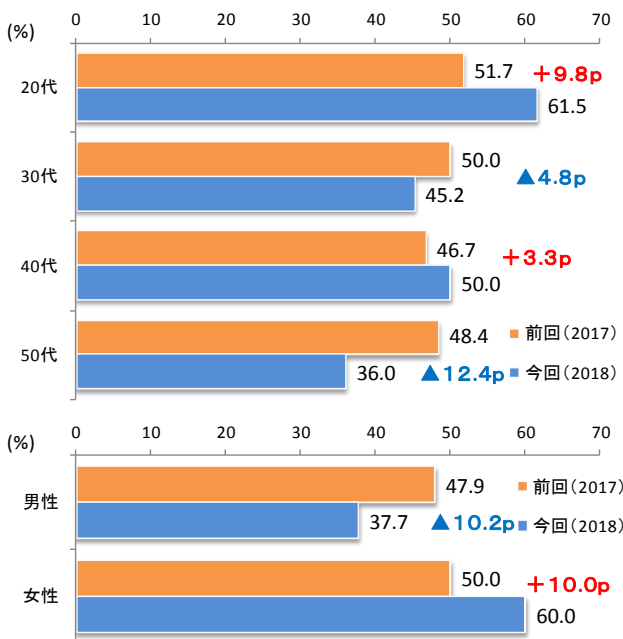
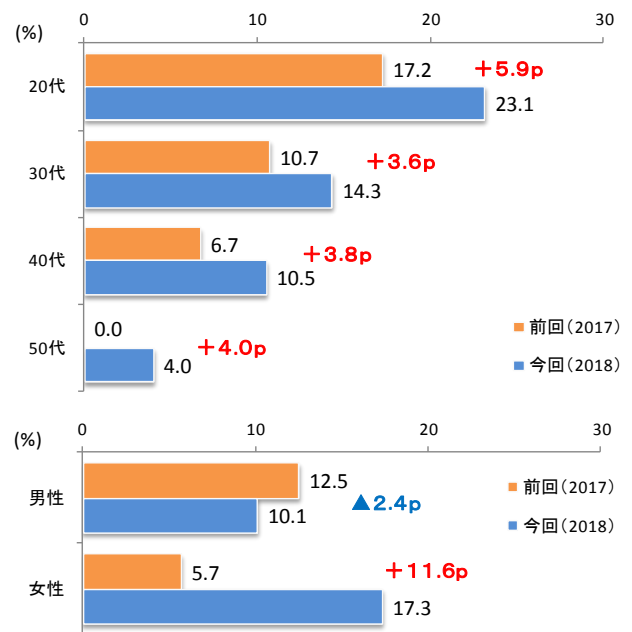


図8 「時計・アクセサリー」の年代別・男女別結果

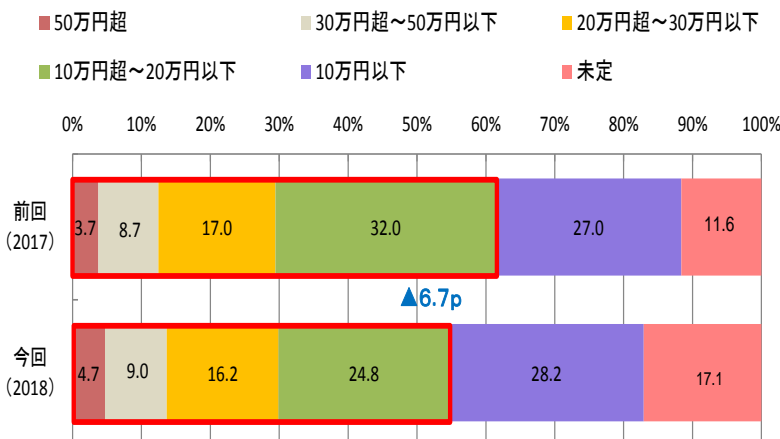


#### 4. 「貯蓄・資産運用」の予定

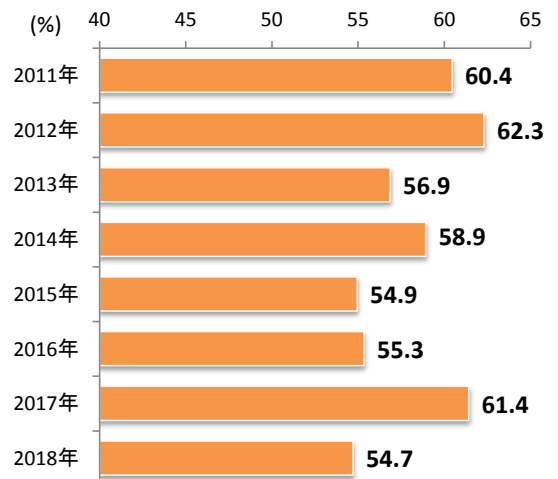
##### (1) 貯蓄・資産運用の総額

➢「貯蓄・資産運用」の予定総額では、「10万円超」を支出する回答者が合計 54.7%で、前回調査比で減少している。2011年以降の推移をみても、「10万円超」の回答は最も低い結果となった(図表9)。

図表9 貯蓄・資産運用の予定総額



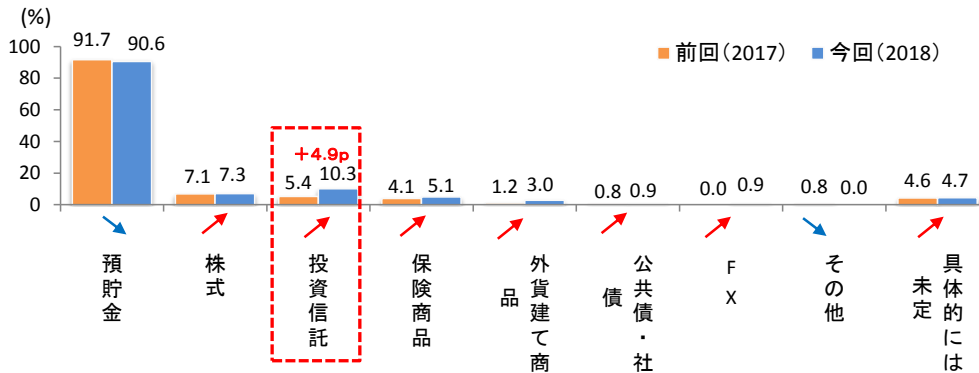
【参考】貯蓄・資産運用の予定総額「10万円以上」



(2) 貯蓄・資産運用で選ぶ商品

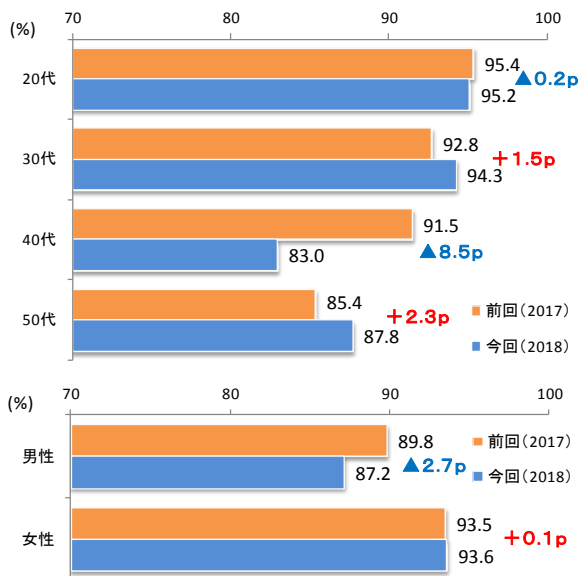
➤「貯蓄・資産運用」で選ぶ商品は、「預貯金」が 90.6%と最も多かった。前年比でみると、「投資信託」の増加が目を引く。「NISA(少額投資非課税制度)」の利用の広がりなどがうかがえる(図表 10)。

図表 10 貯蓄・資産運用で選ぶ商品 (複数回答)

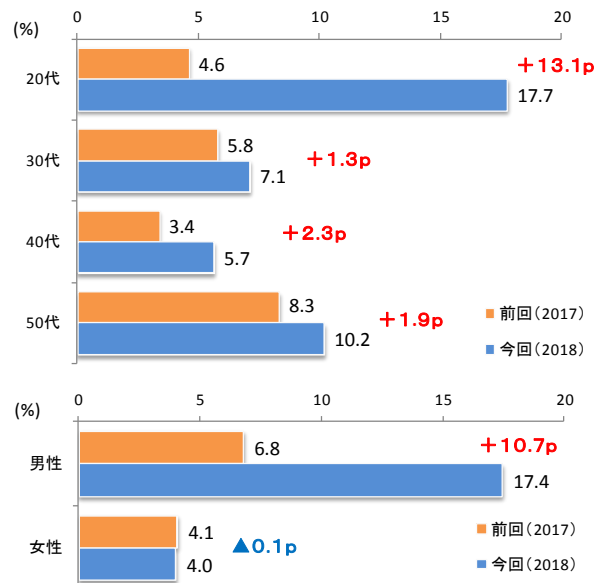


➤「預貯金」という回答の結果を属性別にみると年代別では、「40代」で前回調査よりも大きく減少している。男女別では「女性」はほとんど変化なく、「男性」で減少している(図表 11)。  
 ➤「投資信託」は、年代別では「20代」、男女別では「男性」で大きく増加した(図表 12)。

図表 11 「預貯金」の年代別・男女別結果



図表 12 「投資信託」の年代別・男女別結果



おわりに

➤今回調査では、ボーナスの支給環境にはそれほど大きな変化がみられなかった。  
 ➤そのような中、ボーナスの使い道では「買い物」という回答が増加し、買い物への支出総額でも、「10万円超」を予定する人が増える結果となった。  
 ➤熊本地震で冷え込んでいたボーナスでの支出意欲にも改善の兆しがうかがえる結果となった。